

ヒアリングにおける指摘事項に対する回答資料 (No.14)

指摘事項 No.14 に対する回答

<p>No.14 (220613-12)</p>	<p>耐津波設計方針</p>	<p>放水ピットをコンクリートと埋戻土で閉塞することによる海水戻りライン逆止弁およびラプチャディスクへ与える影響について、整理し説明すること。(押し波で満水になった後に、引き波で負圧になることの影響など)</p>
------------------------------	----------------	--

A：泊1，2号機の放水ピット立坑閉塞による原子炉補機冷却海水系統への影響について整理した結果について、以下の通りご回答いたします。

津波時に放水側の想定海水面の上昇が生じることにより、海水送水に必要な揚程が大きくなるため、海水流量が低下する可能性が考えられますが、津波による海面上昇の変動は短時間の過渡的な影響であることから、原子炉補機冷却海水系統に対して有意な影響は生じないと考えられます。

津波により海水戻りライン逆止弁が動作した場合には、ラプチャディスクが動作することにより必要海水流量を確保する設計としております。

また、放水ピット水位は大気開放状態となっており、図1に示す通り放水路から放水池への流れは少ないことから、津波時においても放水路内の気相部が完全に失われる可能性は低いと考えられます。(加えて、現在運転停止中であることから循環水ポンプを停止しています)

ラプチャディスクが動作した場合には、当該位置からの空気の吸込みが考えられることから、引き波時においても開放端が確保されます。



図1 1，2号機放水池（循環水ポンプ停止状態）

以上